

令和3年度 第1回新潟市潟東樋口記念美術館運営協議会次第

日 時 令和3年6月8日
午後2時15分
場 所 樋口記念美術館受付棟

1 開 会

2 議 事

(1) 会長及び副会長の選任について

(2) 令和3年度事業計画について

3 閉 会

令和3年度第1回新潟市潟東樋口記念美術館運営協議会 会議概要

日時：令和3年6月8日（火） 午後2時15分から4時

場所：新潟市潟東樋口記念美術館受付棟

出席委員：5名

赤塚久枝、乙川千香、笹崎功、佐藤正昭、宮沢淳子

（五十音順、敬称略）

欠席委員：なし

傍聴者：なし

事務局：（潟東地区公民館）阿部和夫 館長、上原弘子 主査

（樋口記念美術館）岡本典子 会計年度任用職員

資料：別添

会議のあらまし

- ・令和3年度1回目の協議会を開催した
- ・会長、副会長を選任した
- ・令和3年度の事業計画の説明を行い、質疑と意見が出された。

1、会長・副会長の選任（進行：事務局 阿部）

事務局：ただ今から令和3年度第1回新潟市潟東樋口記念美術館運営協議会を開催いたします。協議会の会議の進行は、会議開催要項の第4条で会長が進行することとなっていますが、会長の選任が終わるまで事務局で進めさせていただきます。

では、次第に従いまして、会長及び副会長の選任を行います。会議開催要項の第4条で、会長及び副会長は各1名を委員の互選によって定めるとされています。会長、副会長として立候補あるいは推薦する方はありませんか。

（立候補、推薦の声なし）

乙川委員：事務局案はありませんか。

事務局：事務局案という発言がありましたので、検討していただく材料としてご紹介させていただきます。

会長には、佐藤委員、副会長には赤塚委員を提案いたします。

ご意見、立候補、推薦等がありましたらお願いします。

笹崎委員：事務局案に賛成します。

事務局：ほかに候補者、推薦が無いようでしたら、提案に賛成いただける方の拍手をお願いします。

(全員拍手)

事務局：それでは、皆さんの賛同が頂けたという事で、会長には佐藤委員、副会長には赤塚委員に就任いただきます。

会長が決まりましたので、以後の進行は佐藤会長からお願いします。

2、令和3年度事業計画について

佐藤会長：(就任あいさつ)

佐藤会長：議題の(2)、令和3年度の事業計画について事務局から説明をお願いします。

事務局：美術館については、例年、併設されている資料館と連携して事業を行っており、今年度もこれまでと同様の方針で事業を計画しております。美術館新館の2階では、引き続き金子孝信作品の展示を予定しています。

1階と2階旧館、並びに資料館1階では、4月29日から所蔵品展として地元ゆかりの作家の作品の展示を行っています。今回の所蔵品展は、春にちなんで、彩り豊かな作品を選んで展示しています。所蔵品展は9月12日までを予定しています。

次に、例年ですと所蔵品展の終了後、12月にかけて特別展を開催していましたが、今年度は、学芸員が不在であることから、特別展は実施しないこととしていますが、所蔵品展として、金子孝信の作品を、美術館と資料館の展示スペースを使って特集するかたちでの実施を予定しています。

最後に、孝信展終了後の展示ですが、現在のところ具体的な案はありませんが例年通りの所蔵品展の実施を考えています。

佐藤会長：事務局の説明が終わりました。質問、意見等ありましたらお願いします。

赤塚委員：美術館、資料館の全館を使って金子孝信作品を展示するということが、作品数が限られていて来館者を呼べる、魅力のある展示ができるのか。

事務局：完成した作品に加え、下絵も一緒に展示することで、その作品が出来上がる過程や、作家が使用していた画張、その他の資料を展示することで作品の背景なども知ることができるような展示を行い、より深く作品を理解できることで魅力のある展示としたい。

乙川委員：作品の解説に工夫が必要だと思う。

事務局：作品を良く知る人などからの情報を集めて分かりやすい説明としたい。

乙川委員：学校の美術の授業で使う副読本に掲載されている作品もある。学校の統合により美術館と学校が近くなった。学校からの利用してもらうことも考える必要がある。

赤塚委員：社会科見学などの機会もある。

笹崎委員：以前は学校が分散しており、美術館から遠い学校もあった。

乙川委員：学校に、美術館、資料館の活用方法を示して具体的に検討していけば実現できるのではないかな。

宮沢委員：授業の中での実施が難しいのであれば、夏休みの課題として取り上げてもらう方法もある。

乙川委員：特に小学生に興味を持ってもらうことで、地元の誇りとなる美術館にして欲しい。

事務局：学校と相談し、実現できるよう調整したい。

乙川委員：美術館受付棟で毎年実施している「お茶の間美術館」について、地域のサークル活動の発表の場となっているが、利用者を地元潟東地区に限定するのではなく、新潟市内に広げて、市民のギャラリーとしての活用はできないか。

美術関係者の中には、発表の場を探している人やグループも多いと思う。市内の多様な人からの利用を受け入れることで多様な人がこの施設をPRしてくれることになる。来場者も増やすことができると思うし、美術館の有料来場者の増加にも役立つと思う。

赤塚委員：美術館、資料館を広く知ってもらう方法として大変有効な方法だと思う。やってもらいたい。

事務局：実施方法について改めて相談させて欲しい。実現に向けて進めていきたい。

宮沢委員：金子孝信展のPRに向けて何か考えはあるか。

事務局：金子孝信の書いた詩に曲を付けて、楽曲になっている。CDが作成されたので、これを館内で流すなど、話題性を高めたい。

佐藤会長：ほかに質問、意見等はありませんか。

(発言なし)

佐藤会長：それでは、これで、第1回、新潟市潟東樋口記念美術館運営協議会を終了します。